

村山創生懇談会における発言要旨
【テーマ】山形くらしを楽しむ（県民の幸福度向上）

日 時：令和5年1月31日（火）
13:30～15:00

場 所：村山総合支庁本庁舎 402 会議室

【1巡目】 山形くらしの中でどういう時に幸せを感じるか

【大山 真吾 氏】（大山精機 専務）

- ・ 幸せを感じるのは自然に関わる時。小さい頃から今現在も山遊び、川での魚捕り、スノーモービルなど尾花沢の大自然の中で遊び、生活をしてきた。普通の人では見ることのできない景色を朝から晩まで見られることが本当の価値だと考える。

【佐藤 恒平 氏】（地域振興サポート会社 まよひが企画 代表）

- ・ 幸せを感じるのは、桃色ウサビで PR をした後に町の人から、「ありがとう」と言ってもらえる時。PR してくれたおかげで商品が売れた、お客さんがたくさん来てくれた、といった小さなありがとうをたくさんもらえる瞬間が幸せだと感じる。
- ・ 近年、朝日中学校の中にサテライトオフィスを構え、子供達の放課後の居場所にもなっている。それは自分の小さい頃にこんな大人に会いたかったという思いがずっとあり、あの時会いたかった大人に自分になりたいと考えているからである。そのような大人になれるようがんばることが自分の現在の幸せの指標になっている。

【佐藤 千草 氏】（㈱吉田屋旅館 代表取締役）

- ・ 幸せを感じるのは、遠くの山々がきれいに見える時。特に厳しい吹雪の後に晴れた時に本当に幸せを感じる。
- ・ 旅館をやっていると様々な問題が起こるが、必ず助けてくれる人がいる。皆さんとても親切で、あまりお金もかからずにやってくれる。他県にいたときは何か問題が起こると何をしたらいいかわからず苦勞した思いがあるが、山形ではそういう思いが全くなく、安心感がある。
- ・ 山形にいますとお中元やお歳暮に困らない。お中元はさくらんぼでよく、お歳暮はラ・フランスでいい。その他のお土産も山形はおいしいものがあるので全く困らない。

【田中 麻衣子 氏】（㈱キャリアクリエイト ヤマガタ未来ラボ編集長）

- ・ 現在東京に住んでいるが、山形に帰ってきた時に高校の同級生と一緒に子供をべにっこ広場で遊ばせている時が幸せを感じる。
- ・ 東京では隣人が誰か全くわからないが、山形は人のつながりを感じる。田舎は匿名性がなく知り合いが多過ぎることが嫌だという人もいるが、私は人とのつながりに価値を感じる。ので、大事な人とのつながりを大切にしながら日常生活を送ることが幸せだと感じる。

【堀川 裕志 氏】(羽陽建設㈱ 代表取締役)

- ・私は小学生の子供がいるので、海やスキー等、自然が豊かで、四季が豊かなことに幸せを感じる。
- ・さくらんぼ、すいか、もも、ぶどう等四季に応じておいしい食べ物がたくさんあり、子供が喜んでくれるので幸せだと感じる。

【村山 恵子 氏】(特定非営利活動法人クリエイトひがしね 理事・事務局長)

- ・子供が生まれた瞬間が人生で一番喜びを感じた。ただ、実際に子育てをしてみると思うようにいかず、お母さん方が大変な思いで子育てしていることが初めてわかった。子育てに不安を感じるお母さん方に大丈夫だと声をかけ、親子が笑顔で共に成長していく姿を眺めることが最高に幸せを感じる瞬間である。その親子の笑顔が山形で子育てしてよかったという幸福度につながるといいと思っている。

【山蔭 瞬 氏】(山形市基幹型地域包括支援センター 第一層生活支援コーディネーター)

- ・虫採りやアスレチック、雪遊びと、近隣の市町村も近く、色々な場所に行き、色々な体験をさせられることが、子供達にとっても幸せなことだと思っている。
- ・先日たまたま買ってみたワインがとてもおいしく、山形は近くで好きなものを色々見つけることができるのも小さな幸せを感じる。

【横尾 友栄 氏】(有壽屋 代表取締役)

- ・山形で幸せを感じるのは仕事をしている時。卸売に頼らず自社の販売力を駆使して販売している。それは私達が作っている商品をしっかりと理解してくださるお客様に購入いただきたいという思いからである。お客様との信頼関係をしっかりと構築できていると感じる瞬間が幸せを感じる。
- ・小学生の娘がいるが、スノーボード、山登り、海水浴と山形の自然を満喫しながら育っている。また、山菜や夏野菜など季節ごとに食べる物がたくさんあり、近所の方からお裾分けをいただいたり、産直で採れたてを購入したりと幸せを感じている。
- ・山形交響楽団や県民ホールなど、音楽、舞台、芸術等にも触れることができ山形は本当にいい所だと感じる。
- ・子育てに両親が非常に協力的で、自分が働いている間も子供の面倒を見てもらえた。両親が近くにおいて子育てができるという大変恵まれた環境において、山形でなかったら子育てできなかつたかもしれないと改めて感じた。

【渡辺 誠一 氏】(大江町就農研修生受入協議会「OSINの会」 会長)

- ・ずっと地元に住んでいるので良さがあまりわからないが、天気の良い日に外で仕事をするときれいだと思うし、県外からの研修生と山菜採りに行くとすごく喜んでくれる。自分達にとっては当たり前でも、外から来た人にとっては楽しいやきれいと思うことが多く、外から来てくれる人のおかげで山形の良さがわかることがOSINの会をやっていてよかったと感じる。
- ・これまで OSIN の会を通じて移住した方でこんな所で暮らせないと帰った人は誰もいない。

- ・作った果物も他の所と比べておいしいと言ってもらえるので、山形の気候などがあってこそその産物だと思う。

【2巡目】 山形県の誇り・地域の誇りと思うところは。

県外に出て初めて知った山形県の良さ・地域の良さは。

【大山 真吾 氏】

- ・真逆の発想だが、生活するのに苦労するところが山形の誇りなのではないかと考える。思い出話をする時は、「大変だった、けれどおもしろかった」という経験が頭に残っているものである。先日、銀山温泉の価値はお金がなくて何も変えてこなかったことだという話を聞いた。その時、銀山温泉は除雪せずに、銀山温泉に辿り着くまでに苦労した方が辿り着いた時の価値が高まるのではないかと考えた。山形はよそを真似する必要はなく、もっと今の不便な状況を味わうのも一つの価値なのではないかと考える。

【佐藤 恒平 氏】

- ・山形は観光地として希少性が高く、山形に来たことがある人が少ないからこそ自分が山形に来た人にできる有用性が非常に高い。有名な観光地だと、案内しようと思っても、ここは行ったことがあると言われてしまうことが多い。自分が山形を使ってできることがすごくたくさんあり、他人におもしろい価値を提供できるということが山形にいて自分が誇りに思うところである。

【佐藤 千草 氏】

- ・山形の誇りに思うことは、100年以上の老舗企業が多いところ。京都に次いで2番目であることが意外と知られていない。山形の質実剛健さ、技術力、忍耐力の高さを誇りに思う。
- ・お客さんから蔵王に行くのに大雪で道は大丈夫かという問合せがよくある。蔵王の除雪能力はとても高いので絶対に大丈夫ですとお答えしているが、到着したお客さんから本当に大丈夫だったと言っていた時に誇りに思う。冬季の全国大会があった時にも他県の選手団の方から山形の除雪能力はすごいと褒められた。いつも除雪していただいている皆様に感謝申し上げたい。

【田中 麻衣子 氏】

- ・ルーツ、歴史、過去の人のストーリーなど、どんな人達がどんな思いで地域を作ってきたかにとっても共感する。人を通して、その人を育ててくれたその地域に共感し、その地域に愛着を感じるという順番になっていくのをすごく感じる。採用ブランディングにおいても、ハローワークの求人票は数字的な情報しかないが、そこに書かれていない会社の思い、社風等を伝える記事や動画などを作るようにしている。人材不足の中で、その会社が何を考え、どういう思いでいるのかを伝えることが、愛着、幸福度、誇りにつながっていくとを感じる。
- ・山形はポジションが空いていることが大きな良さだと感じる。山形ではやっている人がい

ないからこそ市場が空いていて活躍できる素地がある。何か刺激的なことをやりたいが、東京の競争で揉まれて辛いのも嫌だという人からするととてもいい場所である。ある歯科開業医から、山形にUターンしたが自分達の提供価値は何かをしっかりと考えて仕事をしていたら年収も落ちず、しっかりとお客も付いて山形で開業してよかったという話があった。

- ・転職相談等で山形の魅力は何かと聞かれた時に、食べ物等を挙げがちであるが、働くおもしろさが相当あるということをもっと伝えた方がよい。例えば、大企業と比べ中小企業は人手が足りないので、やる気のある人であれば上に登っていきやすいという話をしている。人柄等がいい人であれば採用したいという経営者の方も多いので、人柄、価値観、考え方が合うかというところでのマッチングをこれからもっとやっていくとよい。

【堀川 裕志 氏】

- ・山形の誇りは人柄の良さだと考える。自己PRは苦手だが、寡黙で、まじめで我慢強いところが人付き合いしていても心地よい。先日、東京から工場を移転し移住してきた方から、山形の人は真面目にとってもよく働いてくれると言っていた。

【村山 恵子 氏】

- ・山形の誇りは人が温かいことである。県外からあそびあランドに遊びに来た方から、山形は人が温かいと言っていた。施設内で迷子の子がいた場合、あえて館内放送は使わないで周りの人に呼び掛けると、皆さん一緒に探してくれる。そのように、ただサービスの提供を受ける場所ではなく、一緒に育ち合う場所にしていくことを大事にしたいと考えている。落とし物があっても必ず届けてくれる人がいて本当に山形はいい人ばかりと感じる。
- ・豊かな自然の中で自由に遊ぶことのできる環境は山形ならではの誇りだと感じる。豊かな自然の中で遊んで育つと、いろいろなことを自分で感じ取り、自分で考えて行動できる子に育っていく。困っている子がいると手を差し伸べてくれたり、よその子を自分の兄弟のようにお世話をしてくれたりする。

【山蔭 瞬 氏】

- ・私は県外出身で大学も県外であったが、山形出身の友人がみんな方言をちゃんと話すことに驚いた。また、卒業後の進路を聞くと山形に戻るという人が多かったことも印象的であった。愛着度ランキングを見ると、山形は順位が低いようだが、本当はもっと愛着を持っているのではないか。方言は愛着にすぐつながると思う。
- ・県外から来た講師の方から、山形は地域福祉の聖地であるという話を聞いた。今も山形市では住民が地区社会福祉協議会を組織して活動しており、住民主体という地域福祉の歴史を守り続けていることが山形の誇りだと感じる。

【横尾 友栄 氏】

- ・山形の誇りは、人々が勤勉で実直であることである。三世代同居や祖父母の近くに住み、祖父母の力をうまく借りて勤勉に仕事をしている方がとても多いと感じる。祖父母や職場の人に上手にお願いして子育てを上手に回していくというのは、大きな苦勞も付きまとう

ことであり、人付き合いの中で非常に高い能力を発揮していることだと思う。山形の子育てはこんなにすごいことをしているということをもっと誇っていくべきだと思う。

- ・山形は4つの地域に分かれており、その地域に伝わる言葉はその地域の風習や人々の生きざまを表していると思う。この言葉が残っていることを誇りに思い、使っていかなければならないと思う。ただ、周りをみると最近山形弁を使う人が少なくなっている。祖父母も孫に汚い言葉を使わせたくないと言って無理に変な標準語をしゃべろうとする。せっかく山形に住んでいるのに山形の手言葉を使えないのはもったいない。もっと大人が山形の手言葉をちゃんと使い、あとは子供が将来的にしっかりと使い分けができるようになることが重要だと思う。

【渡辺 誠一 氏】

- ・山形の手誇りはやはり人がいい、面倒見がいいことだと感じる。OSINの会でも年上の人にお願ひ事をしてもらって引き受けてくれ、研修生の手面倒もすごく見てくれているので、ここまでOSINの会も人が増えたのだと思う。
- ・県外に行って米を食べておいしいと思ったことが一度もない。それくらい食べ物がおいしいというのは誇れることだと思う。
- ・車のナンバープレートをさくらんぼナンバーにしたら、県外に行くとも注目される。これはとても宣伝効果があることだと思う。もっと補助金等出してみんなに付けてもらえば宣伝になるのではないか。

フリーディスカッション

【堀川 裕志 氏】

- ・幸福度ランキングを見ると、平均歩数や生活習慣病の少なさに係る山形の手順位が低く、せっかく自然が豊かなのに健康的でないところが残念だと感じる。運動不足なのではないかと思う。
- ・公園の工事手も請け負っているが、子供から公園がおもしろくなくなっていくと言われる。昔は自由度が高くおもしろい遊具があったが、最近の遊具は怪我をしてはいけないということで、公園に魅力がなくなり、最近公園で子供が遊んでいるのを見たことがない。昨年、廃校に人工芝を敷いてサッカーグラウンドを作ったら、子供達手もすごく楽しそうにサッカーをしてくれた。これからの公園のあり方が、遊具を置いて勝手に使ってくれというよりも、遊びやすい環境を作るのでみんなて遊んでという形になっていくのではないかと思う。これから施設を整備する際の手参考にしていだければ。

【山蔭 瞬 氏】

- ・山形市以外の手地域の手方からも話をうかがうと、どの地域でも出てくるのが足の手問題である。郊外から中心部への手移動などは充実しているが、近距離の手移動が有効な交通手段がないという相談をいただくことが多い。地域の手人達て足の手確保をしようとした場合にハードルとなるのが、車両の手維持費や事故があった場合の手保険の手問題である。地域て足の手確保を檢

討する際に考えやすい制度、仕組みがあると応援になってありがたいと感じている。

【田中 麻衣子 氏】

- ・先ほどもあったが、自然の中でいろいろ感じることで自分の頭で考えられるようになるというのがとても魅力を感じる。自分の力で考えることはこれから生き抜くのにとっても大事なので、自分自身は山形の自然の中で子育てしたいと思っているがなかなか夫を説得できないでいる。北海道の厚沢部町で1～3週間子供を保育園に預けながら家族でその土地の生活を体験できる保育園留学が人気という記事を見てとてもよいと思い、こういうものが山形でもできないかと思った。移住・転職支援をしていてたまにあるのは、夫婦の片方は移住したいが、片方はそうではない場合で、その場合どう説得するか、それとも離婚するのかという非常に難しい問題になる。移住支援をする際に、山形は食べ物がおいしいとか、移住してくれたらレストランの割引もらえるみたいなものではなく、移住を検討する側にとってはもっと切実な問題であり、相手の状況に合わせた具体的な支援がほしいと感じている。例えば、先ほどの保育園留学のように夫も山形の自然の中での子育てを体で体験して、山形もいいなと思ってもらえるような仕組みがあれば、有給休暇を取って山形に行ってみようと言いやすいように思う。

【村山 恵子 氏】

- ・大人の目が行き届き過ぎて子供を守り過ぎてしまうために、挑戦しないまま大人になり、社会に出て行こうとした時に自分がしたいことが見つからない、失敗が怖いということにつながっているように感じる。
- ・山形県民は勤勉で素直で純粋であると思うが、それゆえに騙されやすいところもあるのではないかと思う。実体験の中でこれ以上やったらまずいという感覚を培うことや、小さい頃から色々な大人と触れ、子供の目を肥えさせることも必要だと感じる。
- ・幸福度ランキングにおいて、不登校児童数の低さが山形県は全国2位であったが、このコロナ禍で不登校児童数が増えたと感じている。山形県がこれで少ないということは全国の不登校児童数はどうなっているのかと不安に感じた。友達と交流する機会が奪われ、対人や他人の目が怖いと苦しむ親御さんや子供が増えていると感じる。全ての子供達が自分の持ち味を活かしながら幸せに暮らし、山形を支える人材に育っていくためには、県の力で教育の枠組みを大きく変えることが必要だと思っている。山形県民は素直で誠実で、発達に凸凹があるような子でも理解してくれたら味方になってくれると思うので是非お願いしたい。

【佐藤 恒平 氏】

- ・県民像をこうと表現してしまうことが人の生きづらさにつながらないだろうかと思っている。自分は勤勉でもないし県民像に合わないの、自分はこの地域が合わないのではと思う人が出てきてしまうのではないか。山形は色々な人を受け入れてくれる、入りやすい地域であってほしい。また、どこかに行ってみたいという人をがんばってこいと送り出してくれる地域であってほしいと思っている。中学生達には、自分のままでいいので、自分なりに山形のことを知って、好きになってほしいと伝えている。こうあるべきという人間像

を決めるのではなく、山形はそんな君でも大歓迎だよと言ってあげることが幸福への近道であると感じる。

【大山 真吾 氏】

- ・学校教育の中でお金の勉強をすることが今後重要になると考えている。子供達と川で鮎を捕まえて売ったら驚くほど売れたり、流木を拾って Yahoo オークションで売ったら驚くほど値段がついた。それを見た子供達は自分のものがこんなに売れたとすごい刺激になった。これはお金の儲け方を知らない学校の先生では教えられないことである。地域の方の持つ様々なノウハウを学校教育の中に取り入れて、最終的に生活に結びつくような教育が必要だと思っている。